

瞳想い・・・

2017 春夏号

医療法人 平田眼科だより

スポット ビジョンスクリーナー

子どもの視力は生まれた時から発育し続けて、両眼で見る力や遠近感・立体感覚、その他さまざまな視機能まで完成するのは10歳前後といわれます。

斜視があったり、両眼の視力に大きな差があると、片方の目が弱視になったり、さまざまな視機能が十分に発育できなくなってしまう。できるだけ早期に3歳位までに発見して治療すれば、効果も上がりやすいといわれます。

しかし特に3歳未満の幼児の目の度数検査

や眼位検査は、大変な困難が伴います。最近それに対処するためのスポットビジョンスクリーナーという新しい器械が開発されたので、春日井本院および小牧平田眼科に導入いたしました。まだ目の検査が難しい乳幼児の検査を短時間に行うことができます。

これを用いた検査で早期に遠視、近視、乱視、不同視や斜視を発見し治療することによって、将来弱視になることを予防したり、いろいろな視機能の発育を助けることが期待できるようになりました。



平田眼科理事長
平田 國夫
(日本眼科学会眼科専門医)



白井 久行
(日本眼科学会眼科専門医)



伴野 泰一
(日本眼科学会眼科専門医)



平田 文郷
(日本眼科学会眼科専門医)



小牧平田眼科院長
久田 廣次
(日本眼科学会眼科専門医)



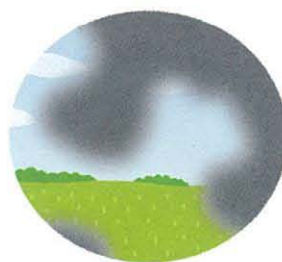
小栗真千子
(日本眼科学会眼科専門医)

「緑内障」 最近の知見

緑内障には他の病気から引き起こされた続発性緑内障や、先天性の緑内障等も一部ありますが、多くは原発性の開放隅角緑内障と閉塞隅角緑内障と呼ばれるものです。このうち開放隅角緑内障の中でも眼圧が20mmHg以下のものを正常眼圧緑内障と呼び、緑内障全体の約90%を占めています。自覚症状が乏しいために発見が遅れ、視力障害を起こしやすいタイプがこの「正常眼圧緑内障」です。



正常に見える視界



緑内障の人の視界

以下はこれを中心に説明致します。

◎有病率の変化…緑内障は日本人の中途失明原因として最も多く、原因となる目の病気の中で約4分の1を占めるようになりました。

緑内障の有病率は年齢とともに増加してきます。平成12～13年に行われた多治見スタディ（疫学調査）によりますと、有病率は40歳代で2.2%、50歳代で2.9%、60歳代で6.3%と上昇し70歳代では10.5%、80歳以上は11.4%になると報告されています。70歳以上の方の10人に1人は緑内障という事になります。

これを40歳以上全体としてみると5%となるので、最近まで40歳以上の方の20人に1人は緑内障といわれてきました。しかしこの調査が行われた平成12年度の総人口は1億2693万人、65歳以上の人口は2204万人で当時の総人口に占める割合は約17.4%でした。その後高齢化が急速に進み、平成28年度の総人口は1億2693万人で変



わっていませんが、65歳以上の人口は3459万人となっており、総人口に占める65歳以上の割合は約27%と急増しております。

このため緑内障の40歳以上の方の有病率は、今までいわれてきた20人に1人ではなく、今や40歳以上の方全体では10数人に1人は、すでに緑内障と類推されます。しかしご自身が緑内障と自覚されておられる方は、この内せいぜい1割程度に過ぎません。そのため特に目に症状を感じなくても、40歳以降は少なくとも5年に1回は目の検査を受けていただく「節目健診」の制度化の必要性が叫ばれています。

◎**検査の進歩**…緑内障で最も大切な事は早期発見と、治療効果を見るための継続的な経過観察です。そのために用いられる検査としては、眼圧検査、眼底カメラ等の眼底検査、視野検査が従来から一般的に行われてきました。

眼圧が点眼剤治療などでかなり下がっていても、本当に緑内障の進行が食い止められているのかを見るためには、今までは視野検査の結果が判定材料として重視されてきました。もちろん現在も視野検査の経過を見る事の重要性に変わりはありません。しかし最近画期的な検査方法が加わりました。「OCT検査」(眼底三次元画像解析)と呼ばれるもので、赤外光を用いて眼底の視神経乳頭の変化や網膜視神経層の厚みの変化を直接他覚的に判定できるようになったのです。この「OCT検査」により、緑内障を疑う異常な所見が有りなが



らも、通常の視野検査ではまだ視野欠損が認められない症例を「前視野緑内障」(preperimetric glaucoma)と称するようになりました。

最近の知見では視野検査で異常が発見された時は、5～6割以上の方が既に網膜に障害を受けている事が分かってきたのです。今では緑内障の早期発見や経過観察する上で、「OCT検査」は無くてはならない重要な検査となっています。

平田眼科では眼圧、眼底カメラ、精密視野検査に加えて必要な間隔で「OCT検査」を行うようにしております。総合的な検査結果は診察時に医師が説明し、必要な場合は点眼剤処方や指導を行っておりますので、ご心配のある方は当院診察時に医師にご相談ください。



当院での深視力検査のご案内

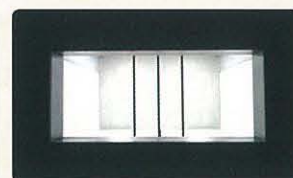
自動車免許の区分が平成29年3月12日改定され運転免許の種類に新たに準中型免許が新設されました。深視力検査はもともと大型・中型・けん引・第二種免許の取得・更新の際に行われてきましたが、新設の準中型免許でも深視力検査が必要となりました。この検査は両目で見た時の目の能力のうち、動くものの遠近感や立体感を調べる検査となります。

検査は、2.5m離れた距離に写真のように3本の棒があり、そのうち中央の棒だけが前後に動きます。中央の棒が左右の棒と横並びになったときにボタンを押して、左右の棒と位置のずれを距離で測定する検査です。3回検査した平均誤差2cm以下が免許取得・更新の条件です。

検査自体に患者さんが慣れていない場合、良好な深視

力が得られない場合があります。この場合は事前に当院で深視力検査を受けて、深視力検査自体を十分に理解して慣れておくことと良好な深視力が期待できます。

運転免許に関係なくても、視力の左右差が大きい方や飛んで来るボールが取りにくい方は、一度深視力検査を受けるように致しましょう。両眼の視力をそろえるために必要なら、メガネやコンタクトレンズの処方を行う場合もあります。



平田眼科のご案内

- 人間ドックや一般検査で糖尿病や高血圧の疑いを指摘された方は、早めに当院で眼底の精密検査をお受けください。
- 緑内障の早期発見のため、年に1回は眼圧と眼底検査を受けましょう。
- メガネやコンタクトレンズは、眼科医による検査・処方で作ることになっております。新しく作る場合や更新される時は、当院で検査をお受けください。
- コンピューター業務などに従事されている方は、今お使いのメガネやコンタクトレンズが適正かどうか当院で検査いたします。
- 眼科及び全身疾患において、より高度な検査や手術、治療が必要な場合は、各大学病院や眼科専門病院と緊密な病診連携を行っております。
- 目の成人病や企業の眼科検診もお引き受けいたしております。

**看護師・視能訓練士
募集しております**

平田眼科ホームページアドレス
<http://www.hirataganka.com>

又は平田眼科で検索

スマホサイトも
ご利用いただけます



春日井本院 国道19号沿い・名古屋銀行向い

◎診療時間

曜日	曜日	月	火	水	木	金	土
午前	8:45~11:45	○	○	○	○	○	○
午後	15:30~18:30	○	○	○	△	○	○ <small>14時~16時</small>

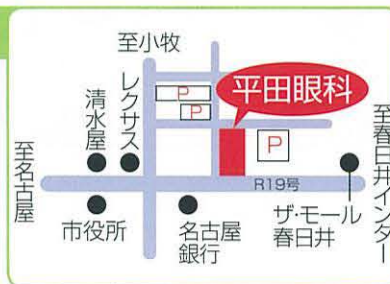
休診日●木曜午後・日曜・祝日 (土曜午後 14時~16時)

春日井市瑞穂通6-22-3

☎(0568)

84-6638

専用駐車場有



小牧平田眼科 アピタ小牧店南、小牧中学校正門前

◎診療時間

曜日	曜日	月	火	水	木	金	土
午前	9:00~12:00	○	○	○	○	○	○
午後	15:30~18:30	○	○	△	○	○	○ <small>14時~16時</small>

休診日●水曜午後・日曜・祝日 (土曜午後 14時~16時)

小牧市堀の内4-52-1

☎(0568)

74-6638

専用駐車場有

